スポットライト

「皆さんに安心してかかってもらえる病院に」

三重大病院長に就任

池田 智明さん(63)

「皆さんに安心してかかってもらえる病院に」

汚職事件で退職者が相次いだ麻酔科の再建を、病院長としての職務の「一丁目一番地」に位置付ける。就任前の一年間は大学の特命副学長（医療担当）として、逮捕、起訴された元教授の後任探しに奔走し、この春には新たな教授を迎えた。専門医を育成する「指導医」も増え、事件の影響でストップしている研修プログラム再開に向けて体制を整えている。

専門は産婦人科。「患者さんに『おめでとう』と言える数少ない診療科」と選んだ。だが、国立循環器病研究センター（大阪府吹田市）勤務だった二〇〇六年、出産中に脳出血になった妊婦が十九の病院に救急搬送を拒否され、センターで受け入れ後に亡くなる事件が発生。胸に刻み、自身が立ち上げた全国の死亡症例を検討するネットワークで、「どうすれば救えたか」を考え続ける。

三重大教授に就いた一一年からは、産婦人科医不足の解消のため魅力的な職場づくりに心を砕いた。スタッフの長所をみるため、とことん話を聞く。時には「アフター5」まで。十一年間で同科への入局者は倍増。

「人を集めるのは得意かもしれません」と、病院全体の横のつながりを強化した「がん診療」のさらなる充実なども掲げる。

自ら「日本一幸せな会社」と称される企業の経営者に教えを請い、職員の職場環境に気を配る。「自分たちが幸せでないと、患者さんを幸せにはできないですから」

（斎藤雄介）